

科目名 Course Name	相談援助実習Ⅱ Social Work Practicum Ⅱ						
年次	2年	期別	集中(後期)	単位数	3	授業形態	実習
担当者氏名	佐藤佳子 吉田志保 大熊信成						
連絡先(質問等)	福祉棟 3F 研究室か、メールで対応。						
必修/選択	選択(社会福祉士国家試験受験資格取得必修)						
関連 DP	DP2、DP3、DP4						
授業の概要と到達目標	<p>「相談援助実習Ⅱ」では、相談援助における実習指導者の職種の位置づけと業務内容を全般的に理解することをめざす職種実習と実習指導者のソーシャルワーク実践の実態を理解し、実習生自らがソーシャルワーク実践を試行することをめざすソーシャルワーク実習を行う。</p> <p>① 相談援助職の業務の実際を学び、説明できるようにする。          ② 相談援助職と他職種との連携を学び、例証できるようにする。          ③ アセスメントを行い、援助計画を作成できるようにする。          ④ 社会福祉士として求められる資質・技能。倫理を習得し、発展できるようにする(臨床実践につなげる)。</p>						
授業の方法	福祉施設・機関における実習						
学習成果	L01						
	L02	机上で学んだ社会福祉や相談援助に関する知識や技術が実際の援助現場で活かされていることを確認することができる。					
	L03	対象者理解につとめ、対象者の人生や生活に視野を広げ、援助計画を考えることができる。					
	L04						
課題に対するフィードバック	実習記録を作成する。実習記録は各実習において各教員が巡回指導にあたり、指導する。その場でフィードバックをする。						
教科書/参考図書	実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで使用したテキストを使用する。他 授業中に指示する。						
履修上の留意点やルール等	実習生としてのマナーやルールを順守し、実習に適した態度で実習に臨むこと。私語、遅刻、早退は厳禁。目的意識・課題意識を明確にして実習に臨みこと。事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回 180 分とする。相談援助実習指導Ⅱの単位未取得者、他フィールド履修不可。社会福祉士資格に関連する科目 3 科目以上の未修得がある場合は実施不可。						
担当教員の実務経験	●実務経験(職種:ソーシャルワーカー 職歴:通算 25 年) ソーシャルワーカーとしての経験を、学生指導をするときに活かす。						

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度					
レポート/作品					
発表					
小テスト					
試験					
その他	出勤状況、実習態度、実習巡回指導、実習指導者の評価、記録などにより総合的に評価する		50	50	
合計			50	50	

回数		授業計画
1	授業内容	<p>配属された各施設・機関において6日間(48時間以上)の実習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配属された各施設・機関において18日間(144時間以上)の実習を行う。</li> <li>・配属先は、原則的に実習生が希望と居住地、自らの実習計画を参考に実習生が選択し、教員と相談の上、決定する。</li> <li>・実習1か月前には実習施設・機関へ事前訪問を行う。</li> <li>・実習中は実習指導者の指示に従い、スーパービジョンを受ける。</li> <li>・記録を毎日作成し、期限までに実習指導者へ提出する。(最終日には、全記録を実習指導者へ提出する)</li> <li>・実習終了後は、18日間の学びを「評価とまとめ」として作成し、実習指導者へ提出する。</li> <li>・実習中、実習指導教員による指導が巡回または帰校日により計3回行われる。</li> </ul> <p>【実習予定施設・種別】社会福祉協議会・介護老人福祉施設、デイサービス、障害者支援施設等。</p>
	事前・事後学習	
2	授業内容	
	事前・事後学習	
3	授業内容	
	事前・事後学習	
4	授業内容	
	事前・事後学習	
5	授業内容	
	事前・事後学習	
6	授業内容	
	事前・事後学習	
7	授業内容	
	事前・事後学習	
8	授業内容	
	事前・事後学習	
9	授業内容	
	事前・事後学習	
10	授業内容	
	事前・事後学習	
11	授業内容	
	事前・事後学習	
12	授業内容	
	事前・事後学習	
13	授業内容	
	事前・事後学習	
14	授業内容	
	事前・事後学習	
15	授業内容	
	事前・事後学習	